

現代朝鮮語の副詞節において意志を表すモダリティ形式*

黒島規史
熊本学園大学

1. はじめに

現代朝鮮語（以下、朝鮮語と称す）では、種々のモダリティ形式が主節だけではなく、副詞節中にも生起可能である。テンス、モダリティ形式が副詞節中に生起可能かを調査した研究はこれまでに多くあった（Kwon 1985、Nam 1994、野間 1997、Yi 2000 等）。Nam (1998)、Park (2006) ではモダリティ形式の中でも意志、推量を表す *-keyss-* について、特にこのモダリティ形式が副詞節中に生起したときに、モダリティの認識主体がどの人称として解釈されるかを明らかにした。この両研究でも副詞節中に生起する *-keyss-* の意味については扱っているものの、中心的に扱われているわけではなかった。さらに、両研究においては *-keyss-* 以外の他のモダリティ形式は研究対象となっていない。モダリティ形式については、今まで主節中での意味が研究されることのほうが多かったが、副詞節においてはモダリティ形式の生起自体が不可能な場合があり、さらに生起したとしても意志と推量のうちどちらかの意味しか表されない場合もある。そのような副詞節中におけるモダリティ形式の意味について十分に明らかにする必要がある。

モダリティ形式 *-keyss-* は、1 人称、2 人称主語の文において意志 (volition) を、3 人称主語の文において推量 (inference) を表す。主節においては意志、推量の意味をどちらも表すことができるが、*-ciman* (～が) から成る副詞節中に *-keyss-* が生起した場合、意志を表す例が現れる頻度は低く、そのほとんどが推量の意味に偏る。(1) は *-keyss-* が主節において話し手の意志を表している例である。(2) は *-keyss-* が副詞節中に生起している例で、ここでは *-keyss-* は推量を表している。

(1) 가능한 한 빨리 기획안 다시 올리겠습니다.

kanungha-n han ppalli kihoykan tasi olli-keyss-supnita.

可能だ-連体. 完状 限り はやく 企画案 再び 上げる-意志-直接. 丁寧

「可能な限りはやく、企画案を提出しなします。」[시크릿 가든 1]¹⁾

* 本稿は「第十屆西太平洋韓語教育與韓國學國際學術會議」にて口頭発表した ‘연결어미와 결합한 양태 형식이 나타내는 의미 — ‘의지’를 중심으로 —’ の内容を修正し、加筆したものである。コメントをくださった方々に感謝申し上げます。

1) ハングルは Yale 式転写によってラテン文字表記する。ただし、両唇音字の後の u/wu の区別はしない。ドラマのスク립トから例を引用する場合はドラマ名と話数を、「21 世紀世宗計画最終成果物」から例を引用する場合は作品のファイル番号を示すこととする。対象とする

- (2) 지금은 좀 불편하겠지만 나중엔 다 괜찮아질 거야.

cikum=un com pwulphyenha-keyss-ciman nacwung=ey=n ta

今=主題 少し 気まずい-推量-副動. 逆接 あと=与位格=主題 全て

kwaynchanh-aci-l ke=ya.

大丈夫だ-自動-推量=繫辞: 直接. 非丁寧

「今はちょっと気まずいだろうけど、そのうち全部大丈夫になるよ。」

[BRE00315]

(2) において、副詞節述語 pwulphyenha- (気まずい) の主語は聞き手であるが、-keyss- により推量しているのはあくまで話し手である。このようなモダリティの担い手をモダリティの認識主体と呼ぶ。²⁾

Nam (1998)、Park (2006) は -keyss- のみを対象としているため、他の意志、推量を表すモダリティ形式については明らかにされていない点、計量的な調査が行われていない点が課題として残されていた。黒島 (2020) では対象とするモダリティ形式を増やし、計量的な調査も行っているが、意志の意味が副詞節において表されにくい理由については明らかにしていない。

本稿では、副詞節において推量に比べ表されにくい意志に焦点を当て、その意味がどのように制限されるのかを明らかにすることを目的とする。モダリティ形式は、多義性を持ち意志と推量のどちらの意味も表す -keyss-、-l kes=i-、-l they- を対象とし、副詞節内でどのような意味を表すのかを記述する。そのうえで、意志の意味の制限が副詞節の性質のみならず、モダリティ形式の性質にも起因するものだという事を明らかにする。具体的には、本稿では以下の2点について主張する。

- (i) それぞれのモダリティ形式は主節において話し手の意志を表すのにはほぼ制限はないが、副詞節では特に意志が制限される。副詞節内に生起するとき、モダリティ形式の意味は、次のような階層で制限される。ここで、‘>’ の右に位置するモダリティ形式ほど意志が制限されることを表す。

-l kes=i- > -l they- > -keyss-

- (ii) 上の (i) で提示した階層は、‘>’ の右に位置するほど副詞節を含めた従属節内に生起しやすいという性質を持ち、典型的には主節において表される意志が副詞節内で制限される程度と関連がある。

資料について、詳しくは4節を参照されたい。

2) Park (2006) ではモダリティの意味の "담지자 [擔持者] (possessor)" と呼んでいる。

2. 副詞節中に生起するモダリティ形式

副詞節中に生起するモダリティ形式の様相を考察した研究として、Nam (1998)、Park (2006)、黒島 (2020) を挙げることができる。

Nam (1998) は蓋然性を表す接辞 *-keyss-* の意味を、主節主語の意志や推量を表す「主語中心モダリティ (subject-oriented modality)」と、話し手の意志や推量を表す「話し手中心モダリティ (speaker-oriented modality)」に分類した。Nam (1998) ではそもそも *-keyss-* との結合を許す副動詞接辞³⁾と、そうでない副動詞接辞を区別したうえで、主語中心モダリティのみを許す副動詞接辞と、話し手中心モダリティのみを許す副動詞接辞を分類した。前者には条件を表す *-myen* (～たら)、理由を表す *-nikka* (～から) など、後者には逆接を表す *-ciman* (～が)、逆接や前提を表す *-nuntey* (～けど) などが含まれる。

Park (2006) は Nam (1998) の議論を発展させ、副詞節に生起する *-keyss-* のモダリティの認識主体が話し手になるのか、聞き手になるのかを文のタイプ (平叙文、疑問文、命令文、勧誘文、約束文⁴⁾) に分けて考察している。Park (2006) は Nam (1998) の主張と同様に、逆接を表す *-ciman* (～が) はどの文タイプであってもモダリティの認識主体は話し手であるものの、条件を表す *-myen* (～たら) は Nam (1998) の主張と異なり文タイプによってモダリティの認識主体が話し手になるか、聞き手になるかが異なりうることを指摘した。Park (2006) ではまた、*-ni* (～から)、*-ciman* (～が)、*-ntey* (～けど) のような副動詞接辞は、独立性が高い節を導くために、主節と同様に副詞節中でもモダリティの認識主体が話し手になるということを指摘している。節の構造とモダリティの意味の関係を指摘したという点において重要である。

黒島 (2020) では [連体形 + *kes kath-*] (～ようだ)、*-keyss-*、*-l kes=i-* という3つのモダリティ形式が副詞節中に生起したときの、モダリティの認識主体とモダリティの意味について明らかにしている。黒島 (2020) ではモダリティの認識主体が話し手になるのか、聞き手になるのかという問題と、多義性を示すモダリティ形式の意味のうち、どのような意味が副詞節において表されるかという問題について論じている。この研究では副詞節述語にアスペクト、テンス、モダリティなどの文法要素がどれほど結合可能なのかという観点から定形性を規定したうえで、副詞節の定形性にのみ注目し、モダリティ形式自体の性質については考慮に入れていないという問題点があった。

本稿では、副詞節以外の他の従属節中にも生起可能かという観点からモダリティ形式の性質を規定することで、主節では意志、推量の偏りが無いにもか

3) 本稿では副詞的機能を持つ用言の屈折形を副動詞と呼ぶ。副動詞を形成する接辞を韓国の研究では「連結語尾」「接続語尾」などと呼ぶことが多いが、本稿ではより広く言語記述に用いられて副動詞 (接辞) という術語を採用することとする。

4) 朝鮮語には聞き手への約束を表す主節専用の接尾辞 *-lkey* (～するね) があり、これを含む文を約束文と呼んでいる。

わらず、副詞節においては意志が制限され推量に偏る現象に説明を与える。

3. 意志のモダリティの生起環境

本稿で焦点を当てる意志のモダリティは、典型的には主節において1人称主語のときに実現されるものである。

朝鮮語において、意志を表す典型的な接辞である *-llay* (～するよ) や *-lkey* (～するね) は副詞節を含めた従属節には生起せず、主節にしか生起しない。本稿で対象とする *-keyss-*、*-l kes=i-*、*-l they-* は主節のみならず副詞節にも生起可能ではあるものの、推量と意志のうち、意味が表されにくいという現象が観察される。

意志のモダリティが主節に主に生起する現象は朝鮮語のみならず日本語にも見られる。日本語の「(よ)う」は (3) のように主節で話し手の意志や、聞き手に対する勧誘を表すが、従属節では引用節を除いて、(4) のようにその生起がそもそも不可能である。野田 (1995:343) が指摘するように、逆接のガ節中には生起可能ではあるものの、そこでは (5) のようにもはや意志や勧誘といった意味は表せず、譲歩的な意味を表すようになる。

(3) 今度は早めに行こう (よ)。

(4) * 今度は早めに行こうけど、無理かもしれない。

(5) どんなに早めに行こうが、いい席がとれるわけがない。

(以上、野田 (1995:343) より引用し、(5) は2文を1文にまとめている)

本節で見たように、意志のモダリティは典型的に主節において表される。朝鮮語の場合は、副詞節中において意志を表すモダリティ形式の生起自体は日本語よりも多くの事例で観察されるが、意志と推量では推量が表される頻度が高いなど、やはり意志のモダリティは主節に生起することが多いということが言える。

4. 研究方法と対象

本稿では “21 세기 세종계획 최종 성과물” (21世紀世宗計画最終成果物) コーパスと、話しことばの資料を補うためにドラマ10作品のSCRIPTから用例を収集し、分析した。コーパスは문어 (書きことば) の中から、現代語を対象とするために1990年代以降の作品に限定した。テキストのジャンルは상상적 텍스트 (想像的テキスト)、상상 (想像) を含めた소설 (小説)、시나리오 (シナリオ)、드라마 극본 (ドラマ脚本)、희곡 (戯曲)、방송극 (대본) (放送劇 (台本)) を対象とした。コーパスから作品を選定するに際して

は、ソウル以外の方言が大量に混ざった作品と歴史小説は除外した。ドラマについては末尾に作品名を付す。本稿ではこれ以降、コーパスとドラマのスク립トを合わせて基礎資料と呼ぶ。基礎資料の規模は約 1,000 万語節⁵⁾である。

モダリティ形式は、意志と推量のどちらも表しうる、-keyss-、-l they-、-l kes=i- を対象とする。-l kes=i- は非現実の連体接辞 -l と、形式名詞 kes (～こと、～もの) にコピュラの =i- が付くことで形成される迂言的な形式である。-l they- も同様に非現実の連体接辞 -l と形式名詞 the (～ところ) にコピュラの =i- が付くことで成っており、構成は -l kes=i- と似ている。-l they- はこの -l the=i- の融合形で、どちらの形も用いられる。ただし、Ahn (1997) が指摘するように、非融合形の the=i- の前には非現実以外の完了状態の連体接辞 -n、未完了現在の連体接辞 -nun も来ることができ、融合形の they- の前には非現実の連体接辞しか来ることができないなど、形態的な面でも統語的な面でも非融合形と融合形には差異がある。よって、本稿でも 2 つを別のモダリティ形式と見なし、より一般的に用いられる融合形の -l they- のみを考察対象とする。⁶⁾

研究対象であるモダリティ形式は全て、過去接辞とも結合することができる。その場合は主節においても副詞節においても必ず意志ではなく推量を表す。今回は副詞節中に意志、推量を表すモダリティ形式が生起した場合に、意志の意味が表されにくいという現象について考察するため、推量の意味しか表さない、過去接辞と結合した例は考察対象から除外しておく。(6) から (8) は -keyss-、-l they-、-l kes=i- が過去接辞と結合し推量を表している例である。

(6) 놀라셨겠지만 이것이 제 현실이에요.

nolla-sy-ess-keyss-ciman ikes=i cey hyensil=iey=yo.

驚く=尊敬-過去-推量-副動. 逆接 これ=主格 1 単. 属格 現実=繫辞:直接=丁寧

「驚かれたでしょうが、これがわたしの現実です。」[2CE00020]

(7) 회의는 끝났을 것이고 아마도 친구와 약속이 있을지도 몰랐다.

hoyuy=nun kkuthna-ss-ul kes=i-ko ama=to chinkwu=wa

会議=主題 終わる-過去-推量=繫辞-副動. 列举 たぶん=モ 友達=共格

yaksok=i iss-ulci=to moll-ass-ta.

約束=主格 ある-間疑=モ 知らない-過去-直接

「会議は終わっただろうし、おそらく友達と約束があるかもしれなかつ

5) 語節は朝鮮語の分かち書きの単位に相当し、日本語の文節と類似した単位である。

6) 非融合形の -l the=i- が副詞節中に生起した例は -nuntey/ntey 節が 27 例、-ko 節が 14 例、-myen 節が 13 例、-nikka 節が 3 例、-ciman 節が 2 例現れた。表 2 に示すように、融合形の -l they- の場合は -nikka 節中に生起する例が最も多かったのと対照的に、非融合形の -l the=i- の場合は 3 例と、出現頻度が少なかった。

た。」[5BE01013]

(8) 하기 어려운 얘기였을 텐데 내게 해주어서 고마워요.

ha-ki elyew-un yayki=y-ess-ul they-ntey

する-名詞化 難しい-連体. 完状 話=繫辞-過去-推量-副動. 逆接

naykey hay cwu-ese komaw-e=yo.

1 単:与格 する:副動 受益-副動. 継起 ありがたい-直接=丁寧

「しにくい話だったろうに、わたしにしてくれてありがとう。」

[3BES0006]

副詞節内に生起するモダリティ形式の意味、ひいては副詞節内に生起するアスペクト、テンス、モダリティの全体像を明らかにするためには過去接辞が結合した例についても詳細な研究が必要であるが、過去接辞が結合して現れた例の考察は今後の課題とする。

研究対象とする副動詞接辞は、現代朝鮮語において話しことばと書きことばの別なくよく用いられ、今回研究対象とするモダリティ形式とある程度結合例が確認できる、-myense (～ながら)、-taka (～ていて)、-teni (～たところ)、-(a/e)se (～て)、-ko (～て)、-nikka (～から)、-myen (～たら)、-(a/e)to (～ても)、-nuntey/ntey (～けど)、-ciman (～が) の 10 個である。副動詞接辞の後に =nun/un (～は)、=to (～も) のようなとりたて助詞が後続する場合もあるが、このような例については対象としない。さらに、副詞節で文が終止する例についても対象から除外する。これは、とりたて助詞が付いたり、副詞節が主節のように用いられることで、モダリティ形式の生起や意味に影響を及ぼす可能性を否定できないためである。合わせて今後の課題とする。

5. 副詞節中に生起するモダリティ形式の意味

本稿で対象とする -keyss-、-l kes=i-、-l they- は主節では意志と推量のどちらも表しうるが、副詞節中では意志ではなく推量を表すことが多い。以下では、それぞれのモダリティ形式が主節において表す意味を概観したあとで、基礎資料をもとに調査した、副詞節中におけるモダリティ形式の意味を考察する。

5.1. -keyss-

5.1.1. 主節における -keyss- の意味

-keyss- の意味についてはこれまでに数多くの研究があり、その意味も細かく分類されることがあるが、ここでは意志の意味を中心に考察するため、Nam (1998)、Park (2006) のように -keyss- の表す意味を意志と推量に大別すること

とする。⁷⁾(9) と (10) が意志を表す例、(11) と (12) が推量を表す例である。(9) は例文番号のみを変更し、(1) を再引用する。(9) は話し手の意志を表し、(10) は聞き手の意志を問う疑問文になっている。(12) のような例は可能を表す例として分類されることもあるが、Nam (1998: 428-429, fn. 6) でも推量という基本的な意味の一部として分類できると述べられているように、1 人称主語の文であっても話し手自身が制御可能な事態ではないため、あくまである事態が起こりそうだと言し手が推量している文であると見なす。

(9) 가능한 한 빨리 기획안 다시 올리겠습니다.

kanungha-n han ppalli kihoykan tasi olli-keyss-supnita.

可能だ-連体. 完状 限り はやく 企画案 再び 上げる-意志-直接. 丁寧

「可能な限りはやく、企画案を提出しなお願いします。」[시크릿 가든 1]

(10) 차 한 잔 더 드시겠어요?

cha han can te tusi-keyss-e=yo?

お茶 1つの 杯 さらに 召し上がる-意志-疑問-丁寧

「お茶もう 1 杯召し上がりますか？」[CJ000241]

(11) 이런 얘기라면 더 들을 필요도 없겠네요.

ile-n yayki=la-myen te tul-ul philyo=to

こうだ-連体. 完状 話し=繫辞-副動. 条件 さらに 聞く-連体. 非現実 必要=モ

eps-keyss-ney=yo.

ない-推量-感嘆=丁寧

「こんな話ならこれ以上聞く必要もなさそうですね。」[러빙유 10]

(12) 다른 사람은 참아도 나는 못 참겠다.

talun salam=un cham-ato na=nun mos

違う-連体. 完状 人=主題 耐える-副動. 譲歩 1 単=主題 不可能

cham-keyss-ta.

耐える-推量-直接

「他の人は我慢したとしても、わたしは耐えられそうにない。」

[BRE00086]

5.1.2. 副詞節における -keyss- の意味

-keyss- は、-ciman (〜が) 節、-nuntey/ntey (〜けど) 節、-myen (〜たら)

7) Park (2006) では -keyss- の意味を大きく「意図」と「蓋然性判断」に分類したうえで、特殊な用法として「能力」「計画された未来」「起動相」を挙げている。

節中に生起するときに意志を表す。ただし、意志を表すといっても、その比率は推量と比べると少ない。

前節において、主節に生起する -keyss- の意味を、意志と推量に大別したが、副詞節中に生起した -keyss- の意味も同様に分類した。-keyss- が生起して現れたのは、10 個中 8 個の副詞節である。調査の結果を、-keyss- が生起して現れた副詞節が多いほうから順に、表 1 に示す。‘+’ は生起した例があったことを、‘-’ は生起した例がなかったことを表す。括弧内の数字は意志、推量それぞれの出現頻度の内訳である。

表 1. 副詞節中に生起する -keyss- の意味

副詞節	用例数	意志	推量
-ciman (～が) 節	820	+ (24)	+ (796)
-nuntey/ntey (～けど) 節	122	+ (15)	+ (107)
-ko (～て) 節	50	-	+
-myen (～たら) 節	29	+ (3)	+ (26)
-(a/e)se (～て) 節	17	-	+
-nikka (～から) 節	11	-	+
-teni (～たところ) 節	4	-	+
-(a/e)to (～ても) 節	3	-	+

-ciman (～が) 節中に生起した -keyss- が意志を表すのは、820 例中 24 例である。ただし、意志とはいっても話し手の積極的な意志を表していると解釈できる例ばかりではなく、-ki{=nun/=ya} ha-keyss-ciman (-名詞化{=主題/=コン} する-意志-副動. 逆接)「～ことはするけど」という構文で現れたり、とりたて助詞 =nun/un、=(i)ya により対比的に「～はするけど (…はしない)」という文に現れたり、保留つきの意志を述べる例が大半である。前者は 7 例、後者は 9 例現れた。(13) では「作ってはみるが」と保留つきで話し手が意志を述べ、(14) では「努力はするが期待はするな」と対比的に、やはり保留つきで話し手が意志を述べている。

(13) 만들어보기는 하겠지만 된다는 보장은 없습니다.

mantul-e po-ki=nun ha-keyss-ciman toy-nta=nun

作る-副動 試行-名詞化=主題 する-意志-副動. 逆接 なる-直接. 引用=連体. 未完現
pocang=un eps-supnita.

保障=主題 ない-直接. 丁寧

「作ってはみますが、できるという保障はありません。」 [3BE00010]

- (14) 담임인 제가 최대한 노력은 하겠지만 너무 기대는 마십시오.

tamim=i-n ceyka choytayhan nolyek=un ha-keyss-ciman
 担任=繫辞-連体. 完状 1 単:主格 最大限 努力=主題 する-意志-副動. 逆接
 nemwu kitay=nun ma-sipsiyo.
 とても 期待=主題 やめる-命令. 丁寧

「担任であるわたしが最大限努力はしますが、あまり期待はしないでください。」 [BEXX0012]

(13)、(14) において、モダリティの主体、つまり意志を表明するのは話し手である。副詞節内においても意志を表す場合は基本的にモダリティの主体は話し手であるが、-myen (～たら) 節などいくつかの副詞節ではモダリティの主体が聞き手と解釈できる。これ以降、モダリティの主体が話し手である場合には特に言及せず、聞き手となる場合のみ言及することとする。

次に -nuntey/ntey (～けど) 節中の -keyss- が意志を表す例は 122 例中 15 例で、割合としては 3 つの中で最も多かった。意志を表す例は、chwungkoha-keyss-nuntey (忠告する-意志-副動. 逆接)「忠告するけど」、malhay twu-keyss-nuntey (言う:副動 準備-意志-副動. 逆接)「言っておくけど」、あるいは mwut-keyss-nuntey (尋ねる-意志-副動. 逆接)「尋ねるけど」という形で、聞き手にこれから言うことや尋ねることの前置きをする例が大半だった。「忠告する」「言っておく」のような場合が 9 例、「尋ねる」が 2 例だった。(15) がここで述べた前置きをする例で、(16) がその他の例である。

- (15) 그럼 친구로서 한마디하겠는데 요즘 널 보고 있으면 화가나.

kulem chinkwu=lose hanmati ha-keyss-nuntey yocum ne=l
 それでは 友達=様格 一言 言う-意志-副動. 逆接 最近 2 単=対格
 po-ko iss-umyen hwa=ka na.
 見る-副動 進行-副動. 条件 怒り=主格 出る:直接. 非丁寧

「じゃあ友達としてひとこと言わせてもらうけど、最近お前を見てるといらつくんだ。」 [CJ000255]

- (16) 김건모 노래까지는 어떻게든 따라 가겠는데 이걸 영 입에 안 붙는다.

kimkenmo nolay=kkaci=nun etteh-key=ten ttala
 固名 歌=マデ=主題 どうする-副動. 様態=デモ 従う:副動. 継起
 ka-keyss-nuntey ike=n yeng ip=ey an pwuth-nunta.
 行く-意志-副動. 逆接 これ=主題 全然 口=与位格 否定 付く-直接

「キム・コンモの歌まではなんとかついていけるけど、これは全然慣れないな。」 [2CJ00057]

最後に、-myen (～たら) 節中に生起した -keyss- が意志を表すのは 29 例中 3 例であり、少数の例からは一般化が難しい。黒島 (2020) で指摘しているように、-myen 節中の -keyss- の認識主体は、これまでの -ciman (～が) 節、-nuntey/ntey (～けど) 節の場合と異なり、-keyss- の意味にかかわらず聞き手となる。

- (17) 기다리겠으면 대문 밖에서 기다리든지 말든지 마음대로 하세요.

kitali-keyss-umyen taymwun pakk=eyse kitali-tunci

待つ-意志-副動. 条件 正門 外=位格 待つ-副動. 選択

mal-tunci maum=taylo ha-sey=yo.

やめる-副動. 選択 心=とおり する-尊敬: 命令=丁寧

「待つつもりなら正門の前で待つなりなんなり、好きにしてください。」 [BRE00290]

5.2. -l they-

5.2.1. 主節における -l they- の意味

-l they- は主節において 1 人称主語であるときに話し手の意志を表し、2 人称主語の疑問文で聞き手の意志を問うことができる。3 人称主語文では推量を表す。

Ahn (1997) は、-l they- は主節において 1 人称主語の場合のみ可能で、(19) のように確言の接辞 -ci を付けることで 2 人称、3 人称の文でも用いられると述べている。

- (18) 나는/*그는 내일 엘에이로 출장을 갈테다.

na=nun/*ku=nun nayil eyleyilo chwulcang=ul ka-lthey-ta.

1 単=主題 / *3 単=主題 明日 LA=向格 出張=対格 行く-意志-直接

「わたし/*彼は明日 LA に出張に行くつもりだ。」 (Ahn 1997: 245)

- (19) a. 너는 갈테지?

ne=nun ka-lthey-ci?

2 単=主題 行く-意志-確言

「お前は行くつもりなんだろう？」

- b. 그는 갈테지.

ku=nun ka-lthey-ci.

3 単=主題 行く-推量-確言

「彼は行くだろう。」 (Ahn 1997: 252)

しかし上の Ahn (1997) の指摘とは異なり、-I they- は主節において 1 人称主語で話し手の意志を、2 人称主語で聞き手の意志を表し、3 人称主語で推量を表すことができる。(20) が話し手の意志を表す例である。国立国語院 (2005: 814-815; 韓国・国立国語院 2012: 923-924) では、(20) のような話し手の意志を表す文について、「あることを必ずするという、話し手自身の強い意志や計画を表す」と述べている。

(20) 난 네가 주는 거 안 먹을 데야.

na=n neyka cwu-nun ke an

1 単=主題 2 単:主格 くれる-連体.未完現 もの 否定

mek-ul they=ya.

食べる-意志=繫辞:直接.非丁寧

「わたしはあなたがくれるもの食べないつもりだから。」[2BEXXX18]

(21) が疑問文で聞き手の意志を表し、(22) が推量を表す例である。

(21) 인접이 너는 어쩔 데냐?

insepi ne=nun ecce-I they-nya?

固名 2 単=主題 どうする-意志-疑問.非丁寧

「インソプ、お前は どうするんだ？」[BRE00094]

(22) 그녀가 거짓말을 하고 있는 것은 아닐 데다.

kunye=ka kecismal=ul ha-ko iss-nun kes=un

3 単=主格 嘘=対格 言う-副動 進行-連体.非過去 もの=主題

ani-I they-ta.

否繫-推量-直接

「彼女が嘘をついているわけではないだろう。」[5BE02010]

5.2.2. 副詞節における -I they- の意味

前節で、-I they- は主節において、意志と推量のどちらの意味も表しうることを見た。副詞節中においても -I they- はどちらの意味も表しうるが、意志を表すのは -nikka (～から) 節と -myen (～たら) 節中に生起するときに限られる。

-I they- との結合例が多い副詞節から順に表 2 に示す。-myen 節に関して、結合例の大半、全 339 例中 284 例 (84%) が ilu-I they-myen/il-they-myen (言う-意志-副動.条件) (たとえば、いわば) で現れた。これはすでに副詞化したものと考えられるため、表 2 からは除外している。

表 2. 副詞節中に生起する -l they- の意味

副詞節	用例数	意志	推量
-nikka (～から) 節	481	+ (387)	+ (94)
-nuntey/ntey (～けど) 節	364	—	+
-ko (～て) 節	57	—	+
-myen (～たら) 節	54	+ (53)	+ (1)
-ciman (～が) 節	47	—	+

-nikka (～から) 節中に生起した -l they- は 481 例中 387 例で意志を表す。意志を表すといっても、その割合が少なかった -keyss- とは異なる傾向を見せる。-nikka 節中に -l they- が生起する場合、約 9 割は (23) のように文末が命令形、および命令形でなくとも聞き手にある行動を促す形式である。命令形でない例も (24) のように勧誘や、当為を表す形式などが文末に位置する。

(23) 내가 사줄 테니까 더 비싼 거 먹어요.

nayka sa cwu-l they-nikka te pissa-n ke

1 単:主格 買う:副動 受益-意志-副動. 理由 もっと 高い-連体. 完状 もの

mek-e=yo.

食べる-命令=丁寧

「わたしがおごるから、もっと高いの食べてください。」 [BRE00291]

(24) 저기, 나 일 끝내고 올 테니까 이따 한잔 합시다.

ceki, na il kkuthnay-ko o-l they-nikka itta

あの 1 単 仕事 終える-副動. 継起 来る-意志-副動. 理由 あとで

hancan ha-psita.

一杯 する-勧誘. 丁寧

「あの、わたし仕事終えてくるからあとで一杯やりましょう。」

[2CJ00056]

次に -myen (～たら) 節内に -l they- が生起する例は、54 例中 53 例が意志を表す例であった。ただし、53 例中 48 例は ‘V₁-l they-myen V₂’ において、V₁ と V₂ が同様、もしくは V₁ が漢語+ha- (する) の場合は V₂ では ha- のみを繰り返す構文で現れる。V₁ と V₂ が異なる例であっても結局「V₁ するつもりなら V₂ しろ」という意味の文で現れることがほとんどであった。V₁ と V₂ が同様の例を (25) に、異なる例を (26) に挙げる。

- (25) 갈테면 흔적도 남기지 말고 가라.

ka-lthey-myen huncek=to namki-ci mal-ko ka-la.
 行く-意志-副動. 条件 跡=モ 残す-名詞化 やめる-副動. 繼起 行く-命令
 「行くつもりなら、跡かたも残さないで行って。」 [2CJ00032]

- (26) 또 자수같은 걸 권할 테면 내 걸을 떠나라.

tto caswu=kathun ke=l kwenha-l they-myen nay kyeth=ul
 また 自首=ような もの=対格 勧める-意志-副動. 条件 1 単. 属格 側=対格
 ttena-la.
 離れる-命令

「また自首なんて勧めるつもりなら、わたしのもとから去りなさい。」
 [BRE00082]

(26) では副詞節も主節もどちらも述語は ka- (行く) となっている。-myen 節内に -l they- が生起する場合、-keyss- の場合と同様にモダリティの主体は聞き手となる。

5.3. -l kes=i-

5.3.1. 主節における -l kes=i- の意味

-l kes=i- は主節において、-l they- と同様に、1 人称主語のときと、2 人称に対する疑問のとき意志が表される。(27) が話し手の意志を表し、(28) が疑問文において聞き手の意志を問う例である。(29) は推量を表す例である。

- (27) 이번에는 꼭 담배를 끊을 거야.

ipen=ey=nun kkok tampay=lul kkunh-ul ke=ya.
 今回=与位格=主題 必ず タバコ=対格 断つ-意志=繫辞: 直接. 非丁寧
 「今回は必ずタバコをやめるつもりだ。」(国立国語院 2005: 772; 韓国・国立国語院 2012: 873)

- (28) 오늘 점심에 뭘 먹을 거야?

onul cemsim=ey mwe=l mek-ul ke=ya?
 今日 昼食=与位格 なに=対格 食べる-意志=繫辞: 疑問. 非丁寧
 「今日、お昼に何を食べるつもり?」(国立国語院 2005: 772; 韓国・国立国語院 2012: 873)

- (29) 정수기 물이니 틀림없이 깨끗할 것이다.

cengswuki mwul=i-ni thullimepsi kkaykkusha-l kes=i-ta.
 浄水器 水=繫辞-副動. 理由 間違いなく きれいだ-推量=繫辞-直接

「浄水器の水だから間違いなくきれいだろう。」(国立国語院 2005: 772;
韓国・国立国語院 2012: 873)

-l kes=i- の表す意志と推量は、(27) と (29) の例を見るとはっきり区別できるように見えるが、野間 (1990: 28-29) の指摘するとおり、話し手自らの行為を推量して述べる、(27) と (29) の中間に位置するような例も多く見える。

(30) 난 저 문을 나서는 순간 당신을 잊을거야.

na=n ce mwun=ul nase-nun swunkan tangsin=ul

1 単=主題 あの ドア=対格 出る-連体. 未完現 瞬間 あなた=対格

icu-lke=ya.

忘れる-意志/推量=繫辞: 直接. 非丁寧

「僕はあのドアから出た瞬間、あなたを忘れるだろうよ。」(野間 1990: 28; 金淑賢/먼 빛, 그 소리)

(31) 결국 나는 모든 사실을 털어놓을 것이다.

kyelkwuk na=nun motun sasil=ul thelenoh-ul kes=i-ta.

結局 1 単=主題 全ての 事実=対格 打ち明ける-意志/推量=繫辞-直接

「結局私はすべての事実をしゃべってしまうだろう。」(野間 1990: 29; 金聖鐘/第3의 情死)

5.3.2. 副詞節における -l kes=i- の意味

-l kes=i- はすでに見た -keyss-, -l they- とは異なり、多くの結合例で意志を表す。‘-?’ は、後述するように、単に基礎資料中に例が現れなかった可能性があることを示している。

表 3. 副詞節中に生起する -l kes=i- の意味

副詞節	用例数	意志	推量
-ko (〜て) 節	101	+ (12)	+ (89)
-myen (〜たら) 節	67	+ (63)	+ (4)
-nikka (〜から) 節	28	+ (17)	+ (11)
-nuntey/ntey (〜けど) 節	25	+ (5)	+ (20)
-myense (〜ながら) 節	11	+	—
-ciman (〜が) 節	10	-?	+
-(a/e)se (〜て) 節	3	-?	+

まず、-l kes=i- が -ko (〜て) 節内に生起する例では、101 例中 12 例が意志を表していた。

(32) 저는 그 숨은 얼굴을 찾을 것이고 맹세코 용서하지 않을 겁니다.

ce=nun ku swum=un elkwul=ul chac-ul kes=i-ko

1 単=主題 その 隠れる-連体. 完状 顔=対格 見つける-意志=繫辞-副動. 列举

mayngseykho yongseha-ci anh-ul ke-pnita.

断じて 許す-名詞化 否定-意志-直接. 丁寧

「わたしはその隠れた顔を見つめるつもりだし、断じて許さないつもりです。」[CJ000279]

-myen (～たら) 節中に -l kes=i- が生起するときは、-l they- のときと同様の傾向を見せる。67 例中 63 例と、多くの例で意志を表し、かつ「V₁するつもりなら V₂しろ」という文で現れることが多い。ただし -l they- とは異なり V₁と V₂が同じ動詞で現れるという傾向は見られなかった。文末が命令形の例が 22 例と多く現れ、その他は当為や疑問の例も多く見られた。さらに、(29) のように副詞 iwang/kiwang (どうせ) と共起している例が 12 例現れていた。

(33) 야, 기왕 피울 거면 좋은 담배 피워라.

ya, kiwang phiw-ul ke-myen coh-un tampay phiw-ela.

おい どうせ 吸う-意志-副動. 条件 よい-連体. 完状 タバコ 吸う-命令

「おい、どうせ吸うならいいタバコ吸えよ。」[3BES0003]

-l they-, -keyss- の場合と同様、-l kes=i- の場合も -myen 節内ではモダリティの主体は聞き手として解釈される。

-nikka (～から) 節内に -l kes=i- が生起するとき、28 例中 17 例が意志を表す例であった。-l they- と似た傾向を見せ、主節が命令形である例が 17 例中 15 例を占めていた。ただし、その出現頻度には差があり、-l they- が 481 例中 387 例であったのと対照的である。

(34) 제가 명수 대신 남을 거니까 걱정마십시오.

ceyka myengswu taysin nam-ul ke-nikka kekceng

1 単:主格 固名 代わりに 残る-意志-副動. 理由 心配

ma-sipsiyo.

やめる-命令. 丁寧

「わたしがミヨンスの代わりに残りますから心配しないでください。」

[3BN20014]

-nuntey/ntey (～けど) 節中に -l kes=i- が生起する例は、25 例中 5 例のみであった。

(35) 며칠 묵을 건데 조용하고 깨끗한 방으로 주세요.

myechil mwuk-ul ke-ntey coyongha-ko kkaykkusha-n

何日か 泊まる-意志-副動. 逆接 静かだ-副動. 列举 きれいだ-連体. 完状

pang=ulo cwu-sey=yo.

部屋=具格 くれる-尊敬: 命令=丁寧

「何日か泊まるつもりなんですが、静かできれいな部屋をお願いします。」 [2CE00019]

-nuntey/ntey 節にモダリティ形式が生起する場合、モダリティの認識主体は -l kes=i- 以外の場合も話し手であるが、-nuntey/ntey 節中に -l kes=i- が生起し意志を表す例の中には、モダリティの主体が聞き手である例も現れた。

(36) 뭐 만드실 건데 이렇게 많이 사세요?

mwe mantu-si-l ke-ntey ileh-key manhi

なに 買う-尊敬-意志-副動. 逆接 こうだ-副動. 様態 たくさん

sa-sey=yo?

買う-尊敬: 疑問=丁寧

「なに作るつもりでこんなにたくさんお買いになるんですか？」

[2CJ00015]

-myense (～ながら) 節中に -l kes=i- が生起する場合、11 例全てが意志を表す例であった。-myense は日本語の「～ながら」のように事態 A と事態 B が同時に起こることを表すだけでなく、逆接的に「～のに、～くせに」という意味を表すことがある。-myense 節中に -l kes=i- が生起する場合、-myense は逆接の意味を表す。文末は 11 例中 10 例が疑問形で現れた。

(37) 헤어질 거면서 집은 또 왜 샀대?

heyeci-l ke-myense cip=un tto way sa-ss-tay?

別れる-意志-副動. 逆接 家=主題 また なぜ 買う-過去-伝聞. 疑問

「別れるつもりなら、家はまたなんで買ったんだって？」 [BRE00303]

これまでに挙げた例では、モダリティの主体が聞き手として解釈されるのは、ほとんど -myen (～たら) 節内に限られていたが、-myense 節の場合も聞き手となる。

-ciman (～が) 節中に -l kes=i- が生起し、はっきりと意志を表していると考えられる例は基礎資料の中には見当たらなかった。基礎資料には (38) のような例が現れたが、副詞節述語が結果状態のアスペクト形式 -a/e iss- と結び付いており、1 人称主語がコントロール可能な事態ではあるが、状態は明らかな意

志とは考えにくい。意志とも推量とも決めがたい例があることについては
(30)、(31) で見たとおりである。

- (38) 다른 때 같으면 자명종 스위치를 끄고도 한참을 엎드려 있을 거지만
오늘은 사정이 달랐다.

talu-n ttay kath-umyen camyengcong suwichi=lul
異なる-連体. 完状 とき 同じだ-副動. 条件 目覚まし スイッチ=対格

kku-ko=to hancham=ul ephtuly-e iss-ul ke-ciman
消す-副動. 継起=モ しばらく=対格 横になる-副動 状態-意志/推量-副動. 逆接
onul=un saceng=i tall-ass-ta.

今日=主題 事情=主格 異なる-過去-直接

「いつもだったらアラームのスイッチを切ってもしばらくは横になっているが、今日は事情が違った。」 [BRE00095]

基礎資料中には見られなかったが、-ciman (～が) 節中でも -l kes=i- が意志を表す例を作ることとは可能なようである。

- (39) 어차피 다 먹을 거지만 일단 하나만 먹기로 했다.

echaphi ta mek-ul ke-ciman iltan hana=man mek-ki=lo
どうせ 全部 食べる-意志-副動. 逆接 一旦 1つ=ダケ 食べる-名詞化-具格
hay-ss-ta.

する-過去-直接

「どうせ全部食べるつもりだけど、ひとまず1つだけ食べることにした。」
[作例]

-(a/e)se (～て) 節中に -l kes=i- が生起する例において、意志を表している例は見つからなかったが、-ciman (～が) 節の場合と同様に、例を作ることとは可能なようである。

- (40) 나는 혼자 먹을 거라서 1인분만 시켰다.

na=nun honca mek-ul ke=la-se 1inpwun=man

1 単=主題 ひとり 食べる-意志=繫辞-副動. 継起 1人前=ダケ

sikhy-ess-ta.

注文する-過去-直接

「わたしはひとりで食べるつもりなので、1人前だけ注文した。」

[作例]

6. モダリティ形式の従属節への生起しやすさと意味

前節ではモダリティ形式 **-keyss-**、**-l they-**、**-l kes=i-** が主節で表す意志、推量の意味が、副詞節中では意志が制限され、推量に偏る傾向がある現象について記述した。副詞節によって、モダリティ形式が推量ではなく意志を表す頻度は異なる。これは、各モダリティ形式が副詞節を含めた従属節にどれほど生起しやすいかという性質と関連があると考えられる。

6.1. 副詞節中に生起するモダリティ形式が意志を表す条件

モダリティ形式 **-keyss-**、**-l they-**、**-l kes=i-** が副詞節中で意志を表す比率の偏りについて考えたとき、単に副詞節の性質のみを考慮しては、その理由が明らかににならない。

まず、5節で考察した結果をまとめる。表1から表3に示した、モダリティ形式が意志を表す比率を、多いほうから順に整理すると表4のようになる。比率は小数点第1位まで示す。

表4. 副詞節中に生起するモダリティ形式が表す意志の比率

モダリティ形式	副詞節	意志の比率（用例数）	
-keyss-	-nuntey/ntey （～けど）節	12.3%	(15/122)
	-myen （～たら）節	10.3%	(3/29)
	-ciman （～が）節	2.9%	(24/820)
-l they-	-myen （～たら）節	98.1%	(53/54)
	-nikka （～から）節	80.5%	(387/481)
-l kes=i-	-myense （～ながら）節	100.0%	(11/11)
	-myen （～たら）節	94.0%	(63/67)
	-nikka （～から）節	60.7%	(17/28)
	-nuntey/ntey （～けど）節	20.0%	(5/25)
	-ko （～て）節	12.0%	(12/100)

黒島 (2020) で論じているように、**-nuntey/ntey**（～けど）節はアスペクト、テンス、モダリティ形式のみならず、証拠性を表す **-te-** までその内部に含みうるという点で、最も定形性が高く、主節に近いといえることができる。

(41) 그 사람 괜찮아 보이던데 한번 만나 봐라.

ku salam kwaynchanh-a poi-te-ntey hanpen

その人 結構だ-副動 見える-未完過-副動. 逆接 一度

manna pwa-la.

会う:副動 試行-命令

「あの人、良さそうに見えたんだけど、一度会ってみなさい。」

3 節で述べたように、典型的に意志の意味は主節において表される。最も主節に近い -nuntey/ntey 節であれば、他の副詞節よりも意志を表す比率が高いと考えるのが妥当であろうが、表 4 にまとめなおしたように、実際はそのような結果は出ていない。-keyss-、-l kes=i- の場合はそれぞれ 12.3%、20%に留まっており、-l they- の場合は意志を表す例は見られなかった。この問題に説明を与えるには、各々のモダリティ形式によって、副詞節を含めた従属節への出現しやすさが左右されるということを考慮する必要がある。

6.2. モダリティ形式の従属節への現れやすさ

モダリティ形式 -keyss-、-l they-、-l kes=i- がどれほど従属節へ現れやすいかという性質は、副詞節内での意志の表される頻度と関連がある。

本稿ではこれまで副詞節のみを考えてきたが、ここで副詞節以外の従属節、名詞節と連体節内にモダリティ形式が生起可能かということを検討する。(42)に示すように連体節と名詞節、副詞節は従属節であり、さらに上の節に包含されるという構造を持つ。

(42) [[[[連体節] 名詞節] 副詞節] 主節]

[[[[맛있는] 것을] 먹으면서] 이야기한다]

[[[[masiss-nun] kes=ul] mek-umyense] iyakiha-nta]

おいしい-連体. 未完現 もの=対格 食べる-副動. 同時 話す-直接. 非過去

「おいしいものを食べながら話す。」

-l they- はそもそも副詞節に生起することが多いという性質があるため、3つのモダリティ形式を同様に検討することは難しいが、-keyss- と -l kes=i- は名詞節内にも生起することができる。

(43) 싱크대를 향해 점프하면서 더는 못 참겠음을 표현한다.

singkhutay=lul hyanghay cemphwuha-myense te=nun

流し台=対格 向かう:副動 ジャンプする-副動. 同時 もっと=主題

mos cham-keyss-um=ul phyohyenha-nta.

不可能 我慢する-推量-名詞化=対格 表現する-直接. 非過去

「(飼い犬が) 流し台に向かってジャンプしながら、これ以上は我慢できないということを表現している。」[김신희 / 가벼운 책임]⁸⁾

8) 基礎資料から例を得られなかったため、Google ブックスから引用する。書誌情報は末尾に付す。

(44) 그러나 나는 내가 되돌아가지 않을 것임을 잘 알고 있었다.

kulena na=nun nayka toytolaka-ci anh-ul kes=i-m=ul

しかし 1 単=主題 1 単:主格 引き返す-名詞化 否定-意志/推量=繫辞-名詞化=対格

cal al-ko iss-ess-ta.

よく 知る-副動 進行-過去-直接

「しかしわたしは、わたしが引き返さないであろうことをよくわかっていた。」[BRE00283]

-keyss- はさらに、連体節内にも生起することができる。ただし、野間 (1988) による -keyss- の意味分類において、話し手の「境遇」を表す場合がほとんどであり、-keyss- が表す推量の意味のうち、全てが連体節内で表されるわけではない。野間 (1988: 23) は -keyss- が境遇を表す文において、-keyss- は (i) 一部の遂行動詞、(ii) 不可能の副詞 mos と共に、主体に不利な状況を表す動詞、(iii) al- (知る、わかる) や molu- (知らない、わからない) など認識に関わる動詞、(iv) cwuk- (死ぬ)、ssuleci- (倒れる)、michi- (狂う) など、主体に不利な動詞、状態を表す動詞と結合すると指摘している。(45)、(46) は -keyss- が連体節内に生起する例であり、(45) は molu- (知らない) と結合し、(46) は不可能の副詞 mos + 述語と結合している例である。

(45) 그리고 그렇게 아무것도 모르겠는 상황에서 나는 알았다.

kuliko kuleh-key amwukes=to molu-keyss-nun

そして そうだ-副動. 様態 なに=モ 知らない-推量-連体. 未完現

sanghwang=eyse na=nun al-ass-ta.

状況=位格 1 単=主題 知る-過去-直接

「そして、そのようになにも理解できないような状況でわたしは理解した。」[BRE00295]

(46) 노인은 궁금해서 못 견디겠는 모양이었다.

noin=un kwungkumhay-se mos kyenti-keyss-nun

老人=主題 気になる-副動. 継起 不可能 耐える-推量-連体. 未完現

moyang=i-ess-ta.

様子=繫辞-過去-直接

「老人は気になって仕方がないといった様子だった。」[CE000024]

一方、-l they-、-l kes=i- は連体節内に生起することはない。

副詞節内への生起のしやすさについてはすでに 5 節で検討している。表 1 から表 3 に示したように、-keyss- は 8 つ、-l they- は 5 つ、-l kes=i- は 7 つの副詞節内に生起することができ、-keyss- が最も多い。さらに、意志と推量を区別

することなく見ると、-keyss- は -ciman (〜が) 節、-nuntey/ntey (けど) 節内に現れた例がそれぞれ 820 例、122 例であり、-l they- は -nikka (〜から) 節、-nuntey/ntey 節内に現れた例がそれぞれ 481 例、364 例であった。それに対し、-l kes=i- は最も多かった -ko (〜て) 節の例でも 101 例に留まる。

-l they- は従属節に現れやすいというよりも、主節に現れにくいと言ったほうが正確である。-l they- が主節に生起する例はすでに (20) から (22) に挙げているが、主節を形成する接辞の種類は限られている。具体的には、基礎資料に現れたのは非丁寧直接法の -ya が 83 例、直説法の -ta が 58 例、非丁寧疑問法の -nya が 34 例、確言の -ci(=yo)/-cyo が 206 例である。頻度数も副詞節に生起する例に比べると少ない。さらに、基礎資料中のドラマ 10 作品の中には -l they- が主節で用いられた例は 1 例もなかった。-keyss- と -l kes=i- がそれぞれ主節に生起する例は (9) から (12)、(27) から (29) に挙げている。両者に関しては、主節に生起するときに -l they- のような、主節の形態が限定されるということはないようである。

ここで述べてきたことをまとめると、表 5 のようになる。ここで ‘○’ は当該の節内に生起可能なことを、‘×’ は生起不可能なことを表している。

‘△’ は生起可能ではあるものの、形態、意味の面で一部実現が制限される場合があることを表している。同じ ‘○’ で示してはいるものの、-keyss- が最も副詞節内に多く現れるということは、すでに述べたとおりである。

表 5. モダリティ形式の従属節、主節への生起しやすさ

モダリティ形式	連体節	名詞節	副詞	主節
-keyss-	△	○	○	○
-l they-	×	×	○	△
-l kes=i-	×	○	○	○

-keyss- は -l they- と -l kes=i- が生起不可能な連体節内にまで生起することができる。-l they- は副詞節内の生起がほとんどであり、主節の形態が限定的である。-l kes=i- は副詞節内に生起可能ではあるものの、3 つのモダリティ形式の中で最も頻度数が低い。以上のことを勘案すると、-keyss- が最も従属節内に生起しやすく、次に -l they- が従属節内に生起しやすいと考えることができる。この結果を階層として示すと以下の (47) のようになる。この階層において、右に位置するほど従属節内に生起しやすいことを表している。

(47) 朝鮮語におけるモダリティ階層

-l kes=i- > -l they- > -keyss-

この階層は、モダリティ形式が副詞節内で意志の意味がどれほど制限される

かという程度と関連していると考えられる。最も左側に位置した *-l kes=i-* は従属節、主節の別なく現れ、残りの2者より主節により現れやすい。そのような、主節に生起しやすいモダリティ形式であるため、*-l kes=i-* は副詞節であっても典型的に主節で表される意志を表す例が多いと解釈できる。表3で示したように、*-l kes=i-* は5つの副詞節内で意志を表せるだけでなく、作例ではあるものの、7つの副詞節内で意志が表せる可能性がある。さらに *-l kes=i-* が意志を表す比率も高い。*-l they-* はその比率こそ高いものの、意志を表せるのは2つの副詞節に限られる。連体節、名詞節、副詞節の全てに生起可能な *-keyss-* は、従属節により現れやすく、それゆえに *-l kes=i-* とは反対に副詞節内で意志を表すこと頻度が低いのだと考えられる。*-keyss-* が意志を表すことができる副詞節も3つで、比率も全て少なかった。

-l kes=i- に関してまとめれば、*-l kes=i-* は主節に生起する際の形態的な制限はないが、副詞節には現れやすいとは言えない。しかし、それゆえに副詞節内においても主節で典型的に表される意志を高い割合で表すことができる。つまり、副詞節内への生起のしやすさと、副詞節において意志が表される頻度は、両立できない関係にあるということである。

7. さいごに

本稿では、*-keyss-*、*-l they-*、*-l kes=i-* が副詞節内に生起し、意志を表す例について実例に基づいて詳細に記述したうえで、副詞節内においてどれほど意志の意味が表されやすいかは、モダリティ形式の従属節内への現れやすさと関連することを指摘した。典型的に主節において表される意志は、従属節に現れやすい *-keyss-* で最も制限され、従属節に現れにくい *-l kes=i-* で最も制限が弱い。

本稿で明らかにできていない問題は多い。*-l they-* と *-l kes=i-* はともに *-nikka* (～から) 節内に生起するが、その用法の差については扱うことができなかった。さらに、黒島 (2020) では *-keyss-* と *-l kes=i-* が副詞節内で表す水量の意味について一部考察を行っているものの、*-l they-* も含め、モダリティ形式が副詞節内に生起したときに表す推量についても詳細な検討が必要である。

Lee (2006: 61) は、*-l kes=i-* の遡及形が16世紀後半に現れるようになったときは、従属節内に現れることのほうが多かったことを指摘している。これは現代語の状況とは異なる。現代語では従属節内に現れるのは *-l they-* で、*-l kes=i-* はむしろ従属節に現れにくいことは本稿で見たとおりである。このような通時的变化を明らかにすることも今後の課題である。

日本語は古代語から現代語に至る過程で、意志を表すモダリティ形式が徐々に従属節に生起しなくなるという変化を経てきた(北崎 2021 など参照)。本稿で見てきたように、朝鮮語は副詞節内で意志よりは推量の意味が表される場合が多いものの、副詞節内でも意志のモダリティ形式の生起が可能である。本稿

の考察は、構造的に類似した日本語と韓国語の差異をより詳細に明らかにするための端緒となる可能性がある。

《本稿で用いた略号》(省略したもののみ)

引用	引用形	未完過	未完了過去
完状	完了状態	未完現	未完了現在
間疑	間接疑問	連体	連体接辞
固名	固有名詞	1	1 人称
自動	自動詞化	2	2 人称
単	単数	3	3 人称
直接	直接法	-	接辞境界
否繋	否定の繋辞	=	接語境界
副動	副動詞接辞	:	形態素境界非表

《参考文献》

- 국립국어원 [国立国語院] (2005) “외국인을 위한 한국어 문법 2 — 용법 편”. 서울: 커뮤니케이션북스.
- 권재일 [Kwon, Jae-il] (1985) “국어의 복합문 구성 연구”. 서울: 집문당.
- 남기심 [Nam, Ki-sim] (1994) “국어연결어미의 쓰임”. 서울: 서광학술자료사.
- 남길임 [Nam, Kil-im] (1998) “-겠- 결합 양상에 따른 종속접속문 연구’, 남기심(편) “국어 문법의 탐구 IV” 423-451. 서울: 태학사.
- 박재연 [Park, Jae-yeon] (2006) “한국어 양태 어미 연구”. 서울: 태학사.
- 안주호 [Ahn, Joo-hoh] (1997) “한국어 명사의 문법화 현상 연구”. 서울: 한국문화사.
- 이병기 [Lee, Byeong-gi] (2006) “한국어 미래성 표현의 역사적 연구”. 서울대학교 박사학위논문.
- 이은경 [Yi, Eun-gyoung] (2000) “국어의 연결 어미 연구”. 서울: 태학사.
- 韓国・国立国語院 (2012) 『標準韓国語文法辞典』東京:アルク.
- 黒島規史 (2020) 『定形性の観点から見た現代朝鮮語の副詞節』東京外国語大学博士学位論文.
- 北崎勇帆 (2021) 「中世・近世における従属節末の意志形式の生起」『日本語の研究』17(2):19-36.
- 野田尚史 (1995) 「現場依存の視点と文脈依存の視点」仁田義雄(編)『複文の研究(下)』327-351. くろしお出版.
- 野間秀樹 (1988) 「〈할것이다〉の研究——現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって——」『朝鮮学報』129: 1-73.
- 野間秀樹 (1990) 「〈할것이다〉の研究——再び現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって——」『朝鮮学報』134: 1-64.

野間秀樹 (1997) 「朝鮮語の文の構造について」 国立国語研究所『日本語と外国語との対照研究 IV 日本語と朝鮮語下巻研究論文編』 103-138. 東京：くろしお出版.

用例収集に用いた資料

문화관광부·국립국어원 (2007) DVD-ROM “21 세기 세종계획 최종 성과물” 말뭉치
ドラマ台本：“굿바이 솔로”、“달자의 봄”、“러빙유”、“미안하다, 사랑한다”、“백설공주”、
“봄의 왈츠”、“웨딩”、“풀하우스”、“헬로! 애기씨”、“시크릿 가든”

김신희 (2021) “가벼운 책임”. 오티움.

(https://www.google.co.jp/books/edition/_/bXFYzgEACAAJ?hl=ja&sa=X&ved=2ahUKEwifocaM2oD-AhXyq1YBHXHjD-YQ8fIDegQIGRAF)

【付記】

匿名の査読者 1 名から有益なコメントを多数いただいた。記して感謝申し上げる。しかし、筆者の力量不足によりコメントを反映できなかったところも多い。言うまでもなく本稿に残るいかなる誤りも筆者の責任である。

Volitive meaning expressed by modal forms in adverbial clauses in Modern Korean

KUROSHIMA Norifumi
Kumamoto Gakuen University

This paper explores how the meaning of modal forms is expressed when the modal forms are followed by connective endings, and especially focuses on the volitive meaning. Nam (1998) and Park (2006) investigated the issues related to the subject of modality when one of the modal forms, *-keyss-*, is followed by connective endings. In the previous studies, the meaning of *-keyss-* was also discussed, but it was not a central topic and other modal forms were not examined. The present paper focuses on the modal forms *-keyss-*, *-l they-*, *-l kes=i-*, all of which may express both volitive and epistemic meanings and explores how the volitive meaning is expressed when the modal forms are followed by connecting endings. This study proposes the hierarchy of modal forms in Modern Korean: *-l kes=i-* > *-l they-* > *-keyss-*. This hierarchy shows that the volitive meaning expressed by *-keyss-* is more restricted than other modal forms and the volitive meaning expressed by *-l kes=i-* is less restricted. There are some differences in the level of restrictions in the modal forms contained in the subordinate clause. Since the volitive meaning typically can be expressed in the main clause with the first-person subject, the difference in the level of restrictions of the modal forms in the subordinate clause depends whether the modal form in question can readily appear in the subordinate clause.